

すべてをあきらめない。

まずは担当の医療スタッフに相談を

痛みは検査などで数値化することはできません。お子さんの本当の痛みは本人にしかわからないものなのです。本人にとって最適な状態まで痛みは軽減されるべきですが、そのためには医療者と十分話し合い、どういう状況が最良なのか、また治療に関して十分説明を受け、納得した上で治療法を選択する必要があります。もちろん薬の効果・副作用についても十分理解する必要があると考えます。痛みを取る治療はそれぞれ個人個人にあった方法を選択することが重要であり、それこそが痛みを取るための近道なのです。

ですから、病気の治療と同じく痛みの治療に関しても担当の医療スタッフと十分話し合うことが重要です。

お子さんだけではないのです。

最後に私たちが伝えたいことは、この冊子をよんでいたいてあなたの苦痛も緩和ケアが必要な苦痛のひとつだということです。

WHO（世界保健機構）では小児の緩和医療を、「患者である子どもとその家族の心と体のすべての包括的医療」と定義しています。

家族みんなの心と体のあらゆる苦痛・苦悩を見逃さず緩和することが目的とされています。その問題を解決することも、お子さんが病気に立ち向かうために重要な問題のひとつなのです。

小児がんを抱えるお子さんと、ご家族に

小児がんと診断されたお子さんを支えるご家族であり、ともに闘いゆく「あなた」に伝えたいことがあります。

病気のこと、治療のこと、毎日のこと。

たくさんの問題を抱えるお子さんとあなたにとって、それらを乗り越えるためにはたくさんの力が必要になることでしょう。それは、それぞれかたちは違えども同じ様な経験を経たわたしたちが、いま振り返って思うことでもあります。

これから、みんなの笑顔を取り戻すための治療が始まります、いや、すでに始まっているかもしれません。そんなときにあなたのお手元にあるようにと、このリーフレットを作成しました。

病気と闘うために

わたしたちが伝えたいことは「緩和医療」と「緩和ケア」についてです。それは、治療のこと、今後のこと、様々なたくさんの説明を受け、いままさに病気との闘いのさなかにある患者さんとご家族にとって、その治療をより有効なものにするためにとても重要なことだからであり、同じ境遇を乗り越えたわたしたちも重要だと感じられることだからです。

緩和医療は病気に立ち向かうために、生きる力を最大限に引き出すために必要なものなのです。

いつもの笑顔を見られるように

～こどもと家族のための緩和医療～
total care for tomorrow

1. 緩和ケア、疼痛緩和とその重要性

笑顔を取り戻すために、私たちができること。

病気・困難に立ち向かう「力」、
その「力」を最大限発揮できるようにすること。

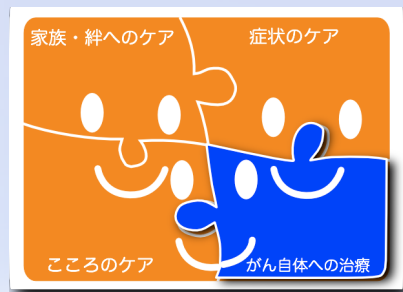
「あした」のために知ってほしい

【緩和医療】と【緩和ケア】

笑顔を取り戻すために、できること。

緩和ケアは終末期ケアではありません

すべてのがん患者さんには等しく**がんの痛みを取り除き人間らしく生きる権利**があるとされています。それは、おとなのがん患者さんたちだけではなくこどもたちも同じです。



「みんなの笑顔のために必要なことは・・・」

がんに伴う痛み『がん性疼痛』は以下のようなものに分類されるとされます。

- ①病気があることによる（直接的な）痛み
- ②病気のために生じた障害による痛み
- ③治療・検査などに伴う痛み
- ④精神・心理的な問題による痛み

これらの複雑で様々な苦痛・苦悩を、様々な程度で感じている、もしくは、経験されることかと想像します。これらの問題を、**できる限り取り除くこと**、それこそが「**緩和医療・症状緩和ケア**」なのです。最期を迎えるときの医療「終末期医療」とは重なりあう部分もありますが、本質的には異なります。

世界保健機構(WHO)では小児の緩和医療に関して、あらゆる苦痛・苦悩を見逃さず緩和することが目的とされています。**緩和医療は病気が良くなる・悪くなるに関わらず、あらゆる苦痛を見逃さず対応することであり、それはすべてのがん患者さんに必要なことだと考えます。**

いま、こどもは痛みを感じているの？

他人の苦痛を理解したり想像することはできても、その人と同じように感じることはできません。**すべての苦痛は自分自身にしかわからないもの**だと思います。表現力の未熟なこどもたちはどうでしょうか？ たとえ新生児であっても、苦痛があれば必ず反応を示します。**痛いと言わないから痛くないということはありません。**しっかりとこどもを見つめ、理解する必要があるのです。

痛みの治療の重要性

病気の治療を考える上で、もちろんご自身のご病気の治療が最優先されるのは当然のことです。治療が有効であれば、痛みも改善することも多いのも事実です。しかし、そのために「**痛みを我慢しなければ**」ならないことはありませんし、また、「**痛みの治療を早くからすると薬が効かなくなってしまう**」ようなことはありません。むしろ**痛みがあることは治療の妨げになる**こともありますし、**日常生活の妨げになることの方が多い**のです。また、**痛みが我慢できないほど強くなればな**

るほどその痛みを取ることに難渋することさえ経験されます。ですから、**なるべく早くから痛みを取り、病気を乗り越え、明日をみつめ、生きるエネルギーを最大限に引き出すためにも痛みの治療は重要です。**つまり、**痛みの治療は、診断後早期から考えるべきことなのです。**そして、痛みが良くなればすぐにやめられるものなのです。

痛みの治療について

痛みの治療は主に3つの要素からなります

①痛みの原因を取り除く

痛みの原因となるがんに対する治療をさします。がんの治療に関連する痛みに関しても積極的に緩和する必要があります。

②鎮痛剤を用いる治療法

鎮痛剤による治療です。一般的な痛み止めの薬に加え、医療用麻薬を痛みの強さにあわせて増減する方法をとります。

③その他の治療法

こころの平静やストレスへのこころの治療や、お父さん・お母さんのお子さんへのマッサージ・そばにいることもまた重要な痛みへの治療です。

様々な原因が複雑な痛みを形成します。ですから様々な方法で痛みへアプローチすることが十分痛みを取るための近道です。